

じょう とう でん しゃ  
城 東 電 車

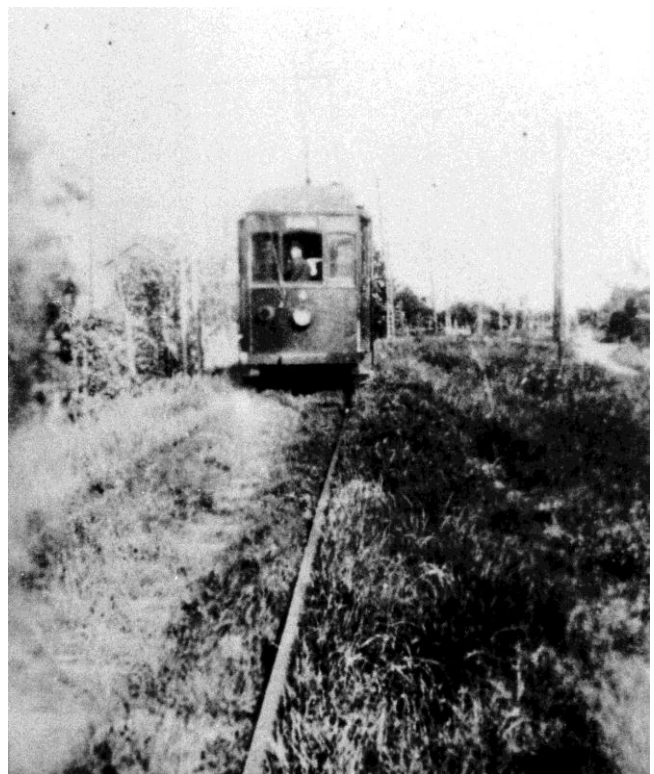
昭和7年(1932)に発刊された『南葛飾郡各町村現状調査』(東京市役所)の瑞江村の村勢現況に、つぎのような記載があります。

本村は都心よりの隔離はなはだ遠く、加うるに交通機関の便少なく、従来の発展は極めて遅々たるを免れざりき、されば今日なお農業を主要産業とする一農村の域を脱せず、(中略)しかれども最近に至り、城東電車の開通するものありて漸次人口の増加を来し、村勢発展の道を辿りつつあり。

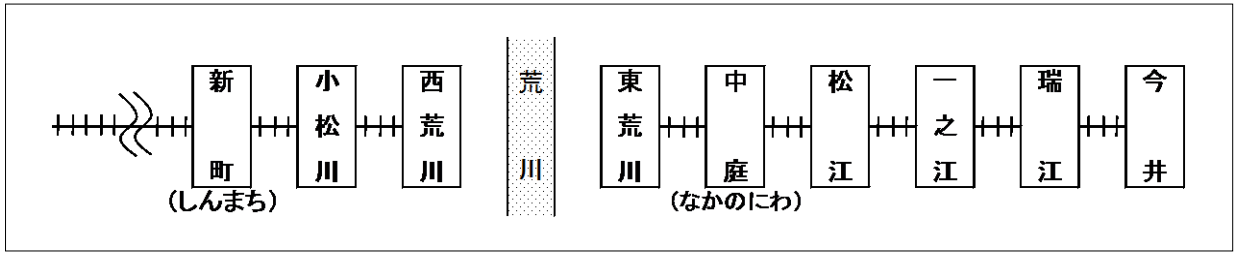
さらに「城東電車は、東荒川を起点とし本村今井に至る。本線は村の中央を府道に沿ひて西北より東南に走り村民の利便甚だ多し」とも書かれています。

この城東電車は、城東電気軌道株式会社の経営した路面電車です。明治44年(1911)3月、当時の本所区錦糸町と瑞江村大字上今井間に敷設の許可があり、大正6年(1917)12月に、第1期線として小松川線(錦糸堀一小松川)が開通、同10年(1921)1月には水神森一大島間が開通しました。

そして同14年(1925)12月に江戸川線(東荒川一今井間)が開通し、翌年3月には小松川線が西荒川まで延長されて、荒川をはさんだ東荒川と西荒川との間はバスで連絡しました。軌道は現在の松江通りの南を並行して走っていました。沿線の村々からはバスよりもはるかに多い利用者があり、春には篠崎堤の桜を見る人々でマッチ箱のような電車は満員になったという



城東電車(昭和6~7年頃)



城東電車の江戸川区内の停留所

ことです。開業当時の駅は上記のとおりですが、その後、松江・一之江間に西一之江が新設されました。

昭和17年(1942)には、城東電車は東京市の経営になって運行され、市電とよばれました。錦糸堀—西荒川は系統38番、東荒川—今井間は系統4番となり、翌年の都制施行で都電となりました。その後、錦糸堀—西荒川間は日比谷まで延長され系統25番となりました。

一方、系統26番となった東荒川—今井間は、昭和27年(1952)に都内初のトロリーバス(101系統)が開通したことによって廃止されています。このトロリーバスは、上野公園と今井を結んでいました。しかし昭和30~40年代にかけての人口急増と、自動車の普及に伴い、交通渋滞など道路事情が悪化し始め、トロリーバスもまた43年(1968)9月29日に廃止されました。

また、区内唯一の都電、西荒川—日比谷公園(系統25)は、昭和43年3月31日に西荒川—須田町<sup>すだちょう</sup>に短縮され、同年9月29日トロリーバスとともに廃止されました。

現在、松江公園(松江七丁目)と一之江境川親水公園内(今井街道のそば)<sup>きどうあと</sup>に軌道跡のモニュメントが存在しています。



都電(西荒川停車場)

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)